

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 査

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	国際交流ふれあい事業				事業期間	平成 13 年度 ～ — 年度							所管課係	社会教育課社会教育係	
事業性区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-1	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	—	—	
目的 (何のために実施するのか)	国際交流ふれあい委員会と連携・協力し、広く市民に国際交流・国際理解の場を提供することにより、広い視野の中で自ら考え、主体的に判断し行動できる人材を育成する。							手段 (どのような方法で実現するのか)	国際交流ふれあい委員が中心となり、外国語指導助手を活用し体験活動や交流活動を行なう。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民							成果 (どのような効果が得られるのか)	外国語指導助手との交流により、市民が異文化への理解を深め、国際感覚が養われる。						
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	平成13年、道内在住の留学生等とのふれあい交流を目的に2泊3日のホームステイ事業が始まり、平成14年から16年までは、北海道大学留学生を対象に事業を行い、平成17年度からは、砂川市のALT（英語指導助手）や近隣市町のALTなどを活用した事業となった。また、砂川高校のESS部が参画している。														

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
一般財源	計画額	112,000	112,000	112,000	336,000	112,000	112,000	112,000	336,000	109,000	109,000	109,000	109,000	436,000	1,108,000
	予算計上額	112,000	112,000	112,000	336,000	112,000	112,000	109,000	333,000	109,000	109,000	68,000	68,000	354,000	1,023,000
	実績額	69,989	113,963	102,756	286,708	108,659	96,961	53,728	259,348	90,454	55,018	56,790	35,835	238,097	784,153
事業費合計	計画額	112,000	112,000	112,000	336,000	112,000	112,000	112,000	336,000	109,000	109,000	109,000	109,000	436,000	1,108,000
	予算計上額	112,000	112,000	112,000	336,000	112,000	112,000	109,000	333,000	109,000	109,000	68,000	68,000	354,000	1,023,000
	実績額	69,989	113,963	102,756	286,708	108,659	96,961	53,728	259,348	90,454	55,018	56,790	35,835	238,097	784,153
事業費予算の内容	講師謝礼	54,000円	54,000円	54,000円		66,000円	66,000円	63,000円		63,000円	63,000円	22,000円	22,000円		
	消耗品	50,000円	50,000円	50,000円		36,000円	46,000円	46,000円		46,000円	46,000円	46,000円	46,000円		
	食糧費	8,000円	8,000円	8,000円		10,000円									
前年度予算との比較 (増減理由)	前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	講師謝礼の減		前年度同額	前年度同額	講師謝礼を交通費相当としたことによる減	前年度同額			
実績との比較 (増減理由)	メイン事業の中止により講師謝礼が減額	講師の増員に伴い講師謝礼の増額	消耗品費の減		講師謝礼の減、消耗品の増	講師謝礼の減	講師謝礼の減、消耗品の減		講師謝礼の減、消耗品の減	講師謝礼の減、消耗品の減	講師謝礼の減、消耗品の減	講師謝礼の減、消耗品の減	メイン事業の中止による講師謝礼、消耗品費の減 3月補正 △32千円		

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：外国人の参加人数	指標の求め方：年間延べ人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：参加者の満足度	指標の求め方：参加者アンケートで事業目的が達成された(大人)、楽しかった(子ども)と回答した人の割合

指標	活動指標 1 (単位/人/延)	計画値	20	20	20		20	20	20		20	20	20	20	
	実績値	実績値	12	21	22		24	22	21		20	19	21	2	
成果指標 1 (単位/%)	計画値	97.0	97.0	97.0		97.0	97.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0		
	実績値	82.0	100.0	97.0		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0				
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている				達成されている					ほぼ達成されている	
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている				変わらない					少し上がっている	
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				上がっている				変わらない					変わらない	
	総合評価				極めて良好である				極めて良好である					良好である	
	総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： メイン事業の中止により指標は達成できていないが、外国の文化に触れ、外国人との交流を図る事業として目的を達成している。また、近隣のALTや砂川高校ESS部の参加を得て国際交流ふれあい委員会の企画運営のもと連携した事業展開ができています。	自己分析： 近隣のALTとの交流が進み、多くの外国人が参加する事業として定着している。また、砂川高校ESS部の積極的な参画体制も確立され、国際交流ふれあい委員会の企画運営のもと良好に事業が推進されている。	自己分析： 近隣のALTとの参加協体制が確立され市民ニーズに合った手法で事業展開されている。	判断理由： 目的が達成され参加者満足度も高い事業である。国際交流ふれあい委員会を中心に、更なる事業の充実が期待できる事業として極めて良好と判断した。	自己分析： 小学校での外国語学習の開始や近隣のALTの参加協体制の確立により親子で参加する事業として定着している。	自己分析： 近隣のALTの参加協体制の確立により、親子で参加する事業として定着しており、国際交流ふれあい委員会の自主的な企画運営のもと良好に事業展開されている。	自己分析： 近隣のALTの参加協体制の確立により、親子で参加する事業として定着しており、国際交流ふれあい委員会の自主的な企画運営のもと良好に事業展開されている。	判断理由： 目的度・達成度の高い事業である。国際交流ふれあい委員会の自主運営度も高まってきており、きわめて良好と判断できる。	自己分析： 近隣のALTの参加協体制の確立により、親子で参加する事業として定着しており、国際交流ふれあい委員会の自主的な企画運営のもと良好に事業展開されている。	自己分析： 近隣のALTの参加協体制の確立により、親子で参加する事業として定着しており、国際交流ふれあい委員会の自主的な企画運営のもと良好に事業展開されている。	自己分析： 近隣のALTの参加協体制の確立により、親子で参加する事業として定着しており、国際交流ふれあい委員会の自主的な企画運営のもと良好に事業展開されている。	自己分析： 近隣のALTの参加協体制の確立により、親子で参加する事業として定着しており、国際交流ふれあい委員会の自主的な企画運営のもと良好に事業展開されている。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響によりメイン事業を中止して、内容を変更して活動指標は計画値に及ばなかったが、国際交流ふれあい委員会の自主的な企画運営のもと概ね良好に事業展開されている。	判断理由： 活動指標は概ね計画値に達しており、成果指標は計画値に達していることから事業の達成度や成果は良好な状態であり、効率性も大きく変わっていないことから、全体としては良好であると判断した。
今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続					現状のまま継続		
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：国際化が進み、外国の文化や外国人との触れ合いを求める市民のニーズが高まっていることから継続して事業を実施する。				H28：小学校での英語学習の重要度が高まっており、市民の中においても外国人との交流の需要は高まっていることから、継続して事業を実施する。				H30：国際化の進展を踏まえ、学習指導要領が改定され、小学校における英語学習がはじまっていることをはじめ、国際交流の推進は社会の要請として重要であることから、継続して実施する。						

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 査

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	高齢者教育推進事業				事業期間	平成 13 年度 ～ ー 年度									所管課係	社会教育課社会教育係
事業性区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-1	他に関連する基本事業	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー	所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	講演会を実施し、高齢者の介護予防に役立てる。							手段 (どのような方法で実現するのか)	老人クラブ連合会と協議し内容を決定する。 市民大学講演会の中の1講座として介護予防講演会を実施する。							
対象 (誰・何を対象としているのか)	高齢者及び市民							成果 (どのような効果が得られるのか)	介護予防の講演を聴くことにより、健康管理や生きがいがづくりに繋がり、介護予防に役立つ。							
事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む）	高齢者大学として高齢者に対する講演会を実施していたが、平成20年度より市民大学講演会の1回を高齢者向けの講演として実施。 平成22年度からは、砂川市老人クラブ連合会と連携し、老人クラブ研修会終了後引き続き講演会を実施することで、たくさんの高齢者の参加を得ている。															

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合 合計		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額	56,000	56,000	56,000	168,000	56,000	56,000	56,000	168,000	56,000	56,000	56,000	56,000	224,000	560,000
		予算計上額	56,000	56,000	56,000	168,000				0	36,000	35,000	38,000	38,000	147,000	315,000
		実績額	56,000	56,000	56,000	168,000				0	35,000	38,000	38,000	0	111,000	279,000
	道費	計画額	28,000	28,000	28,000	84,000	28,000	28,000	28,000	84,000	28,000	28,000	28,000	28,000	112,000	280,000
		予算計上額	28,000	28,000	28,000	84,000				0	18,000	17,000	18,000	18,000	71,000	155,000
		実績額	28,000	28,000	28,000	84,000				0	17,000	18,000	18,000	0	53,000	137,000
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額	28,000	28,000	28,000	84,000	28,000	28,000	28,000	84,000	28,000	28,000	28,000	28,000	112,000	280,000
		予算計上額	28,000	28,000	28,000	84,000				0	56,000	57,000	56,000	56,000	225,000	309,000
		実績額	28,000	28,000	28,000	84,000				0	58,192	55,747	54,600	0	168,539	252,539
	一般財源	計画額	30,000	30,000	30,000	90,000	30,000	30,000	30,000	90,000	30,000	30,000	30,000	30,000	120,000	300,000
		予算計上額	30,000	30,000	30,000	90,000	142,000	142,000	142,000	426,000	32,000	33,000	30,000	30,000	125,000	641,000
		実績額	29,785	29,944	29,795	89,524	141,653	141,449	141,704	424,806	31,000	30,000	30,000	0	91,000	605,330
	事業費合計	計画額	142,000	142,000	142,000	426,000	142,000	142,000	142,000	426,000	142,000	142,000	142,000	142,000	568,000	1,420,000
		予算計上額	142,000	142,000	142,000	426,000	142,000	142,000	142,000	426,000	142,000	142,000	142,000	142,000	568,000	1,420,000
		実績額	141,785	141,944	141,795	425,524	141,653	141,449	141,704	424,806	141,192	141,747	140,600	0	423,539	1,273,869
事業費予算の内容	講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円	講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円	講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円		講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円	講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円	講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円		講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円	講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円	講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円	講師謝礼 100,000円 消耗品 42,000円				
	前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額	前年度同額				
	同額	同額	同額		同額	同額	同額		消費品の増	同額	同額		事業の中止による講師謝礼、消耗品費の減 3月補正△142千円			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：事業参加人数	指標の求め方：年間延べ人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業の満足度	指標の求め方：参加者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

指標	活動指標 1 (単位/人/延)	計画値	実績値	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	実績値	96	85	113	98	87	90	69	70	44	—	90.0	90.0	90.0	90.0
成果指標 1 (単位/%)	計画値	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
	実績値	100.0	97.9	94.4	91.2	97.6	100.0	84.0	57.2	100.0	—	—	—	—	—
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている						ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				変わらない				少し上がっている						少し上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない						変わらない
	総合評価				良好である				良好である						良好である
	評価内容	<p>総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析</p>	<p>自己分析：砂川市老人クラブ連合会と連携や事業周知を行っている。また、老人クラブ研修会の後に引き続き講演会を開催することで、参加者の確保を行い、老人クラブ連合会からも好評を得ている。</p>	<p>自己分析：老人クラブ連合会と連携が深まり、講演会の参加者が定着していることから、たくさんの高齢者の学びの機会となっている。</p>	<p>自己分析：老人クラブ連合会と連携することで講演会の参加者が定着し高齢者が学びの場に参加するきっかけとなっている。</p>	<p>判断理由：生きがいづくりや健康管理に役立つ講演会を聞き、介護予防につなげる事業として、参加者も多く、満足度も高いことから良好と判断した。</p>	<p>自己分析：老人クラブ連合会との連携によりニーズに応じた講演会を実施することで評価の高い事業となっている。</p>	<p>自己分析：講師選定の段階から老人クラブ連合会と連携して講演会の内容を精査し、研修会後の開催により多くの高齢者が参加できる事業となっている。</p>	<p>自己分析：講師選定の段階から老人クラブ連合会と連携して講演会の内容を精査し、研修会後の開催により多くの高齢者が参加できる事業となっている。</p>	<p>判断理由：介護予防の観点から認知症・身体機能低下防止といったテーマの講演会となっているが、講師選定の時点から老人クラブ連合会と調整することにより、ニーズをとらえた満足度の高い事業となっており良好と判断した。</p>	<p>自己分析：講師選定の段階から老人クラブ連合会と連携して講演会の内容を精査し、研修会後の開催により多くの高齢者が参加できる事業になるよう配慮しているが、各指標が計画値には及ばなかった。</p>	<p>自己分析：講師選定の段階から老人クラブ連合会と連携して講演会の内容を精査し、研修会後の開催により多くの高齢者が参加できる事業になるよう配慮しているが、各指標が計画値には及ばなかった。</p>	<p>自己分析：講師選定の段階から老人クラブ連合会と連携して講演会の内容を精査し、研修会後の開催により多くの高齢者が参加できる事業になるよう配慮しているが、活動指標が計画値には及ばなかった。</p>	<p>自己分析：講師選定の段階から老人クラブ連合会と連携して講演会の内容を精査し、研修会後の開催により多くの高齢者が参加できる事業になるよう配慮しているが、新型コロナウイルス感染症の影響により事業が中止となったため、各指標に該当する実績値はない。</p>	<p>判断理由：活動指標は計画値に及ばなかったが、7割近くの実績をあげていることや成果指標が計画値に及んでいないが、平成29年と30年の平均では7割近くの実績を挙げており、一定程度の達成度や成果があがっているが、効率性が大きく変わっており、全体としては良好であると判断した。</p>
今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続						現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	<p>H25：高齢者のニーズに応じた講演会を実施することで、参加者も多く満足度も高いことから、継続して事業を実施する。</p>				<p>H28：参加者数が多く、満足度も高いため継続して事業を実施する。</p>				<p>H30：人口の減少等の影響により、参加者数が減少傾向にあり、事業内容によって事業の満足度にばらつきはあるが、介護予防につながる学習機会の確保は高齢者教育の推進にとって重要であり、学習ニーズを丁寧に把握しながら事業を展開し、事業の満足度を向上させることにより、人口減少が予想される中であっては参加者数の減少はやむを得ない情勢になってきているが、一定程度の参加者は維持できるものと考えられることから、継続して事業を実施する。</p>						

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：オアシス通信発行部数	指標の求め方：月の発行部数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：町内会の配布率	指標の求め方：配布町内会数/町内会数

指標	活動指標 1 (単位/部)	計画値	3,200	3,200	3,200		3,200	3,200	3,200		3,200	3,200	3,200	3,200	
	実績値	実績値	3,200	3,200	3,200		3,200	3,200	3,200		3,100	3,100	3,100	3,100	
成果指標 1 (単位/%)	計画値	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0		
	実績値	実績値	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている					達成されている				ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない					変わらない				少し上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている					変わらない				変わらない
	総合評価					良好である					良好である				良好である
	評価内容	<p>自己分析： 様々な団体や個人とその活動を紹介することで、生涯学習の意義や楽しさを知ってもらう手段としてオアシス通信の意義は大きい。</p> <p>自己分析： 身近な情報をわかりやすく紹介する紙面を充実させ、読んでもらえる広報紙として定着している。</p> <p>自己分析： 年齢に応じて求められる生涯学習情報の提供やいきいきと活動する団体や個人の紹介を学校や町内会等を通じて全市民に発信している。</p> <p>判断理由： 職員が通信を持参し直接手渡しで配布することで、町内会の理解も深まり広く情報提供ができるようになったことから良好と判断。</p> <p>自己分析： 町内会での回覧や家庭教育サポート企業、学校、保育園、老人クラブなど様々な場面で情報提供を行うことで、個人や団体の学習意欲が高まり主体的な学習活動が推進された。</p> <p>自己分析： 生涯学習に関する幅広い情報を提供する広報紙として認識され、広報すながわとはちがう配布手段をとることでお互いを補完した形で情報発信となっている。</p> <p>自己分析： 生涯学習情報を提供する広報紙として認識され、広報すながわとの差別化によりお互いを補完した形で連携を図っている。</p> <p>判断理由： 広報すながわと違う方向性の情報発信を心掛けることにより幅広い情報を市民に提供できるようになっていることから良好と判断した。</p> <p>自己分析： 生涯学習情報を提供する広報紙として認識され、広報「すながわ」と異なる配布手段とすることで、相互補完的な情報発信媒体としての効果があり、学習活動に取り組む団体や個人を紹介することにより、主体的な学習活動につながる構成となるよう配慮した内容にしている。</p> <p>自己分析： 生涯学習情報を提供する広報紙として認識され、広報「すながわ」と異なる配布手段とすることで、相互補完的な情報発信媒体としての効果があり、学習活動に取り組む団体や個人を紹介することにより、主体的な学習活動につながる構成となるよう配慮した内容にしている。</p> <p>自己分析： 生涯学習情報を提供する広報紙として認識され、広報「すながわ」と異なる配布手段とすることで、相互補完的な情報発信媒体としての効果があり、学習活動に取り組む団体や個人、学校関係者を紹介することにより、幅広い紙面構成・内容とできるようになっている。</p> <p>判断理由： 活動指標は計画値に及ばなかったが、その9割の実績をあげており、成果指標は計画値に達しているため、事業の達成度や成果は概ね良好な状態であり、効率性も大きく変化していないことから、良好であると判断した。</p>					現状のまま継続					現状のまま継続			
今後の方向性						現状のまま継続					現状のまま継続				現状のまま継続
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	<p>H25： 地域に密着した通信として、身近な情報や活動を広く周知することで、地域活動がさらに活発化することを目指し継続する。</p>					<p>H28： 地域に密着した通信として、身近な情報や活動を広く周知することで、地域活動がさらに活発化することを目指し継続する。</p>					<p>H30： 地域に密着した生涯学習情報を広く周知することで、生涯学習に取り組むきっかけづくりにつなげることは依然として重要であることから、掲載内容の工夫をしつつ継続する。</p>				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：参加人数	指標の求め方：参加登録人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：事業の満足度	指標の求め方：参加者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

指標	活動指標 1 (単位/人/延)	計画値	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
	実績値	実績値	29	37	28	35	25	15	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
成果指標 1 (単位/%)	計画値	計画値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	実績値	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている			あまり達成されていない
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない			あまり上がっていない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					少し上がっている				あまり上がっていない			変わらない
	総合評価					良好である				普通である			普通である
	評価内容	自己分析：家庭教育サポート企業と連携し、参加者を募り仲間づくりやまちづくりへの関心を高めている。	自己分析：参加者同士の交流が深まり、継続して参加する青年が増える傾向が見えてきた。	自己分析：家庭教育サポート企業との連携によりコミュニケーション能力を高め仲間づくりの場としての活動が企業から評価されている。	判断理由：企業からの配慮で参加しやすい職場環境の整備が図られている。参加者アンケートからも評価は高いことから良好と判断。	自己分析：参加者の仲間づくりという面では一定の成果はみられたが、まちづくりへの意識づけを促すまでは至らなかった。	自己分析：青年団体による自主的な地域振興・まちづくりに関する運営事業に対し、助言指導を行う運営形式で実施したが、継続参加する青年が少なかった。	自己分析：ニーズ調査を行い各回も内容を変え広報なども様々な工夫を行なったが、参加希望が増えず固定化された少人数の参加で推移した。次年度については実施事業ではなく相談事業として事業内容を変えて構築し直していく。	判断理由：参加登録者は多いが実際に事業に参加したり、継続して参加する人数は限られており、目的の効果が出ているとは言い難い。	自己分析：青年主体の学習ニーズに対し随時相談に応じる事業へ移行したため、各指標に該当する実績値はない。平成29年度においては、相談案件はなかったが、青年の学習ニーズに応じた活動を支援する仕組みとしては相談体制を設ける意義は大きい。	自己分析：青年主体の学習ニーズに対し随時相談に応じる事業へ移行したため、各指標に該当する実績値はない。平成30年度においては、相談案件はなかったが、青年の学習ニーズに応じた活動を支援する仕組みとしては相談体制を設ける意義は大きい。	自己分析：青年主体の学習ニーズに対し随時相談に応じる事業へ移行したため、各指標に該当する実績値はない。令和元年度においては、相談案件はなかったが、青年の学習ニーズに応じた活動を支援する仕組みとしては相談体制を設ける意義は大きい。	自己分析：青年主体の学習ニーズに対し随時相談に応じる事業へ移行したため、各指標に該当する実績値はない。令和2年度においては、相談案件はなかったが、青年の学習ニーズに応じた活動を支援する仕組みとしては相談体制を設ける意義は大きい。
今後の方向性					現状のまま継続				手段の見直し				現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：自ら考え行動できる人材の育成を図り、積極的に市内の各事業への参画が進むよう引き続き継続して実施する。				H28：時代の変化とともにコミュニケーションの取り方や興味対象の多様化の中で、同年代の集まりに参加しようと言う考え方が失われつつある。事業達成のための参加者の確保をどのようにしていくか手段内容を再検討する。				H30：家庭教育サポート企業訪問にあわせて、相談体制を整えていることを伝え、このしくみの利用促進に努めているが、実績には結びついていない。第71回成人式の参加者に対して実施したアンケート調査で「現在、学びたいことはありますか？」という質問に対する回答結果を見ると、地域の課題解決やまちづくりへの参画に対する意識というよりは、英語、法律、介護や作業療法など仕事に直結するような実学的知識や技能の習得を求めているものとみられる。この学習環境を教育行政が整備するのは非常に困難であることから、集合学習による事業ではなく、青年の学びに対する後押しができるような現時点で実施している相談体制を継続することが必要と考える。				

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	成人式運営事業				事業期間	昭和 23 年度 ～ — 年度						所管課係	社会教育課社会教育係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-1	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	—	
目的 (何のために実施するのか)	人生に有意義な変化と折り目をつけ、厳肅で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなる場とする。						手段 (どのような方法で実現するのか)		新成人で世話人会を組織し、世話人会が成人式で行いたい企画を地域の人材で組織された運営ボランティアで協議し、運営を行う。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	新成人、市民						成果 (どのような効果が得られるのか)		行政主導ではなく新成人と地域の方々が運営をすることによりすべての新成人に対して主体として式参加の自覚を促すことができる。 仲間づくりや故郷砂川に対する誇りを再認識出来る。					
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	新成人が自ら考え企画運営する成人式になるようサポートしている。 平成18年度より交流センターゆうに会場を移し、平成19年度からはスイートロードとの連携により市内のお菓子を提供するようになり保護者の参加も増加している。													

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	道 費	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	地 方 債	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	そ の 他	計 画 額				0				0					0	0
		予 算 計 上 額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
一 般 財 源	計 画 額	224,000	224,000	224,000	672,000	207,000	207,000	207,000	621,000	163,000	207,000	207,000	207,000	784,000	2,077,000	
	予 算 計 上 額	224,000	212,000	207,000	643,000	175,000	179,000	155,000	509,000	163,000	195,000	189,000	196,000	743,000	1,895,000	
	実 績 額	221,016	203,171	166,001	590,188	172,676	176,371	135,714	484,761	146,807	190,049	184,986	25,068	546,910	1,621,859	
事 業 費 合 計	計 画 額	224,000	224,000	224,000	672,000	207,000	207,000	207,000	621,000	163,000	207,000	207,000	207,000	784,000	2,077,000	
	予 算 計 上 額	224,000	212,000	207,000	643,000	175,000	179,000	155,000	509,000	163,000	195,000	189,000	196,000	743,000	1,895,000	
	実 績 額	221,016	203,171	166,001	590,188	172,676	176,371	135,714	484,761	146,807	190,049	184,986	25,068	546,910	1,621,859	
事 業 費 予 算 の 内 容	消耗品	10,000円	30,000円	20,000円		20,000円	20,000円	20,000円		20,000円	20,000円	40,000円	49,000円			
	食糧費	179,000円	154,000円	159,000円		153,000円	157,000円	133,000円		141,000円	173,000円	147,000円	145,000円			
	印刷製本費	35,000円	28,000円	28,000円		1,190円	1,190円	2,000円		2,000円	1,470円	1,260円	1,520円			
前年度予算との比較 (増減理由)		対象人数により食糧費の増減がある	対象人数により食糧費の増減がある	消耗品費の減と、対象人数により食糧費の増減がある		印刷製本費の減と対象人数による食糧費の増減がある。	対象人数により食糧費の増減がある	対象人数により食糧費の増減がある		対象人数により食糧費の増減がある	対象人数により印刷製本費、食糧費の増減がある	壇上花代が増大する一方、対象人数の減により増減がある	式典事務用品の追加及び案内封筒印刷単価の上昇による増			
	実績との比較 (増減理由)	執行残	執行残	消耗品費と印刷製本費の減		食糧費の減	食糧費の減	食糧費の減		消耗品費の減	食糧費の減	食糧費の減	式典の延期による消耗品費、食糧費の減 3月補正 △168千円			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：地域住民の参画人数	指標の求め方：活動に参画する新成人世話人会・運営ボランティアの人数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：新成人の参加率	指標の求め方：新成人参加人数/新成人参加対象数

指標	活動指標 1 (単位/人)	計画値	35	35	35	35	35	40	40	40	40	40	40		
	実績値	実績値	24	17	19	16	23	20	15	11	9	17			
成果指標 1 (単位/%)	計画値	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0		
	実績値	実績値	65.0	72.3	74.6	75.9	73.7	73.6	69.9	71.9	76.3	—			
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない			ほぼ達成されている				あまり達成されていない		
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					少し上がっている			変わらない				少し上がっている		
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない			変わらない				変わらない		
	総合評価					良好である			良好である				普通である		
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：指標には達していないが、世話人が企画運営した成人式は思い出に残るものであり、仲間づくりや郷土に対する愛着を確認できる事業となっている。	自己分析：たくさんの新成人が参画する成人式を目指しているが、新成人の人数が減少し、各出身小学校から世話人を確保することができなくなっている。	自己分析：行政主導ではなく、新成人や地域住民が主体的に運営する成人式が実施されている。	判断理由：世話人のなり手の確保は課題としてあるが、成人式への世話人や運営ボランティアの参画状況は評価できることから良好と判断。	自己分析：新成人で世話人会を組織し、成人式で行いたい企画を地域の人材で組織された運営ボランティアと協議することで仲間づくりや故郷砂川への誇りを再認識出来る事業となっている。	自己分析：活動に参画する人数は指標に達していないが、成人参加率は好調である。	自己分析：行政主導ではなく、新成人や地域住民が主体的に運営する成人式として実施され、郷土愛が育まれている。	判断理由：世話人ボランティアの確保は常に課題だが、自立的運営がなされており良好と判断。	自己分析：新成人世話人会や運営ボランティアを十分に確保できていない状態はあるが、新成人が主体的に事業の企画段階から参画しながら実施している。	自己分析：市外転出等により新成人世話人が減少傾向にあるが、主体的に新成人が事業の企画段階から参画できる体制が維持しながら実施できている。	自己分析：新成人の人口減少や市外転出等により新成人世話人が減少傾向にあるが、主体的に新成人が事業の企画段階から参画できる体制が維持しながら実施できている。	自己分析：新成人の人口減少や市外転出等により新成人世話人が減少傾向にあるが、新成人が主体的に事業の企画段階から参画できる体制を維持しながら実施できている。新型コロナウイルス感染症の影響により成人式が延期となったため、成果指標に該当する実績値はない。	判断理由：活動指標が運営ボランティアを十分に確保できないため、事業の達成度は良好ではないが、成果指標が概ね計画値に近い水準にあることから一定の成果がある一方、効率性が大きく変化していないことから、全体としては、普通であると判断した。	
今後の方向性					手段の見直し				現状のまま継続				現状のまま継続		
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：多くの新成人が世話人として企画運営に携わることができるよう、世話人の募集や運営ボランティアの関わり方について見直しが必要。					H28：新成人の企画した成人式を地域住民が助言指導しながら実施していく方式を今後も継続させる。					H30：新成人が事業の企画段階から参画しながら実施する方式は本市の特徴的な手法であることから、今後も継続して実施する。				

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：学習相談を受けた件数	指標の求め方：学校支援や家庭教育サポート企業からの学習相談を含めた学習相談受件数
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：学習支援を受けた人の満足度	指標の求め方：利用者アンケートで事業目的が達成されたと回答した人の割合

指標	活動指標 1 (単位/人/延)	計画値	30	30	30		40	40	40		40	40	40	40	
	実績値	実績値	38	17	10		10	10	10		13	13	5	5	
成果指標 1 (単位/%)	計画値	100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0		
	実績値	実績値	—	—		100.0	100.0	100.0		100.0	100.0	100.0	100.0		60.0
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					あまり達成されていない					あまり達成されていない				あまり達成されていない
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない				変わらない					少し上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)					あまり上がっていない				変わらない					変わらない
	総合評価					問題がある				普通である					普通である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 楽習の達人登録者の高齢化に伴い毎年登録人数が減少している。現在は、公民館グループサークルや家庭教育サポート企業などの活用が進んでいるため、個人登録制度の見直しなど改善策が必要である。成果については、利用者アンケートの提出が無かったため実績値が出せていない。	自己分析： 相談者のニーズに応じた生涯学習情報や人材、団体の紹介などを行う学習相談事業へ移行する。成果については、利用者アンケートの提出が無かったため実績値が出せていない。	自己分析： 廃止	判断理由： 楽習の達人制度が市民のニーズに合わなくなり利用頻度が極めて低いことから、平成25年度より市民のニーズに応じた学習相談事業へ変更した。	自己分析： 市民のニーズに応じた学習相談事業へ変更し、公民館グループサークルや家庭教育サポート企業、ボランティア団体の活用相談があった。また、地域で学習活動を行っている人などへの相談もあり市民に活用された。	自己分析： 生涯学習に関する相談窓口として機能しており、相談後の反応も良好である。	自己分析： 生涯学習以外の相談に対応するケースもあるが、反応はおおむね良好である。	判断理由： 様々な生涯学習・体験学習に関する実施や講師の情報を市民が個人的に収集することがあり、相談・紹介窓口としての役割は果たされている。	自己分析： 市民の多様な学習ニーズに応じ、相談を受けており、計画値には及んでいないが、前年度と比較すると受理件数は若干増加しており、相談後の反応もおおむね良好である。	自己分析： 市民の多様な学習ニーズに応じ、相談を受けており、計画値には及んでいないが、前年度と比較すると受理件数は若干増加しており、相談後の反応もおおむね良好である。	自己分析： 市民の多様な学習ニーズに応じ、相談を受けており、計画値には及んでいないが、相談後の反応もおおむね良好である。	自己分析： 計画値には及んでいないが、市民の多様な学習ニーズに応じ、相談を受けている。新型コロナウイルスの影響により、紹介した内容での事業実施に至らないことがあったため、成果指標が計画値に達しなかった。	判断理由： 活動指標が計画値に及ばなかったことから、事業の達成度は良好ではないが、成果指標は計画値に達しており一定の成果があがっていること、効率性も大きな変化がないため、普通であると判断した。	
今後の方向性					手段の見直し					現状のまま継続					現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 個人登録による楽習の達人制度を見直し、公民館グループサークルや砂川市家庭教育サポート企業などと連携して、生涯学習情報の共有化を図り、市民のニーズに応じた学習相談を進める。				H28： 相談者の感想は良好だが、どこに相談していいか分からないという声も聞かれるため、広報手段を考える必要がある。				H30： 生涯学習に取り組むきっかけづくりとしても重要な仕組みであることから、適宜事業の周知を図りながら継続して実施する必要がある。						

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	読書活動推進事業				事業期間	昭和 58 年度 ~ — 年度						所管課係	図書館管理係	
	事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外		建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-2	他に関連する基本事業	—	—			—
目的 (何のために実施するのか)	読書の普及・啓発に係る事業を実施することにより、読書に親しむ機会が得られ、子どもの読書習慣の定着化や自主的な学習活動を支援するとともに図書館の利用拡大を図る。													
手段 (どのような方法で実現するのか)														
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民													
成果 (どのような効果が得られるのか)														
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	図書館事業としては、現図書館が開館した昭和58年度よりボランティア活用事業、おはなし会、巡回文庫、平成4年度より読書週間事業、平成16年度より乳児健診利活用事業といった読書推進事業を開始した。平成19年度からは学校における読書推進を開始した。また、開館当時からこれらの取り組みに係る広報活動も開始し、社会の要請や時代のニーズ等に応じて目的を見直し、これに沿って実施時期、場所、内容を変更しつつ現在に至っている。													

【DO】

実績

(単位：円)

投入された事業費の推移	国費 道費 地方債 その他	計画額 予算計上額 実績額	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計画 計	
			第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31年度)	第10年次 (32年度)		実施4カ年 合計
			計画額					0				0				
予算計上額					0				0					0	0	
実績額					0				0					0	0	
一般財源		15,000	15,000	15,000	45,000	15,000	15,000	15,000	45,000	15,000	15,000	15,000	15,000	60,000	150,000	
事業費合計		15,000	15,000	15,000	45,000	15,000	15,000	15,000	45,000	15,000	15,000	15,000	15,000	60,000	150,000	
事業費予算の内容		読み聞かせ用品購入	読み聞かせ用品購入	読み聞かせ用品購入		読み聞かせ用品購入	読み聞かせ用品購入	読み聞かせ用品購入		読み聞かせ用品購入	読み聞かせ用品購入	読み聞かせ用品購入	読み聞かせ用品購入			
前年度予算との比較 (増減理由)		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額	前年度同額			
実績との比較 (増減理由)		同額	同額	執行残		執行残	未執行	執行残		執行残	未執行	未執行	執行残			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：図書館行事開催数			指標の求め方：図書館行事を開催した回数									
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：市民一人当たり図書貸出し冊数			指標の求め方：年間貸出冊数/年度末人口									
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	30	30	30				30	30	30	30		
		実績値	29	45	51				61	81	71	30		
成果指標 1 (単位/冊)		計画値	3.9	4.0	4.1				4.5	4.6	4.7	4.8		
		実績値	3.9	3.7	4.1				3.9	3.7	3.8	2.9		
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)													達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)													あまり上がっていない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)													変わらない
	総合評価													普通である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：年間貸出冊数は前年度74,320冊であるのに対し72,163冊と約2.4%減少しているが、市民1人当たりの年間貸出冊数は計画値と同値となっている	自己分析：年間貸出冊数は前年度72,263冊であるのに対し67,477冊と約6.6%減少しており、市民1人当たりの年間貸出冊数も計画値を下回っている。	自己分析：年間貸出冊数は前年度67,477冊であるのに対し75,496冊と約11.8%増加しており、市民1人当たりの年間貸出冊数を4.1冊を達成。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	判断理由：入館者一人当たりの貸出冊数は約3.4冊で昨年並みで推移しているが、市民一人当たり図書貸出冊数の目標値を4.0冊としているところ、約3.7冊であったので目標とする実績は得られていないため。	自己分析：年間貸出冊数は前年度75,496冊であるのに対し74,971冊と約0.7%減少しているが、市民1人当たりの年間貸出冊数も計画値を4.2冊を達成。1回あたりの貸出冊数10冊が定着してきている。	自己分析：年間貸出冊数は前年度74,971冊であるのに対し、67,133冊と10.5%減少しており、市民1人当たりの年間貸出冊数も計画値を下回っている。※7～11月の公民館耐震改修等工事で公民館が休館。	自己分析：年間貸出冊数は前年度67,133冊であるのに対し、66,172冊と1.4%減少しており、市民1人当たりの年間貸出冊数も計画値を下回っている。※児童書架改修工事により8月30日～9月15日まで図書館休館、9月16日～9月30日まで児童書の貸出休止。	判断理由：市民一人当たりの図書貸出冊数の目標値を4.3冊としているところ、3.8冊であった。目標とする実績は得られていない。7～11月の公民館耐震改修等工事で公民館が休館したことが影響したと思われる。	自己分析：年間貸出冊数は前年度66,172冊であるのに対し66,502冊と約0.5%増加している。市民1人当たりの年間貸出冊数は、昨年度とほぼ同じであり、1回あたりの冊数10冊は定着してきている。	自己分析：年間貸出冊数は前年度66,502冊であるのに対し、63,794冊と4.0%減少しており、市民一人当たりの年間貸出冊数も計画値を下回っている。	自己分析：年間貸出冊数は前年度63,794冊であるのに対し、47,646冊と25.1%減となっており、市民一人当たりの年間貸出冊数も、昨年度よりも減少している。※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館や閲覧利用自粛、高校生以下の利用自粛の期間、事業の中止があった。	判断理由：入館者一人当たりの貸出冊数は約2.8冊で昨年並みで推移しているが、市民一人当たり図書貸出冊数の目標値を4.6冊としているところ、約3.7冊であったので目標とする実績は得られていないが、図書館行事数は計画値を上回っているため。	
今後の方向性					手段の見直し				現状のまま継続					現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：図書館の市民一人当たりの貸出冊数が目標を下回っていることなどを鑑み、平成25年度より一人当たりの貸出冊数を5冊以内としていたところを10冊に増やし、読書環境の充実を図ることとしたところである。				H28：市民一人当たりの貸出冊数は目標を下回っているが、図書館行事開催数は目標値を上回っており、行事参加者におおむね好評であることから、現状を維持する方向で読書環境の充実を図る。				H30：市民一人当たりの貸出冊数は目標を下回っているが、図書館行事開催数は目標値を上回っており、行事参加者におおむね好評であることから、現状を維持する方向で読書環境の充実を図る。					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)	指標名：子ども読書活動推進ボランティア研修開催回数	指標の求め方：年間2回開催予定
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)	指標名：一日当たり読書を全くしない小学生の割合	指標の求め方：全国学力・学習状況調査実績値
活動指標 2	指標名：子ども読書活動関連通信紙発行回数	指標の求め方：毎月1回発行予定
成果指標 2	指標名：一日当たり読書を全くしない中学生の割合	指標の求め方：全国学力・学習状況調査実績値
活動指標 3	指標名：ブックスタート書籍配布人数	指標の求め方：乳児健診受診者数
成果指標 3	指標名：	指標の求め方：

指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
		実績値	2	6	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	成果指標 1 (単位/%)	計画値	31.2	30.2	29.2	28.2	27.2	26.2	25.2	24.2	23.2	22.2		
		実績値	32.7	27.0	37.1	36.1	21.2	27.8	43.4	27.8	28.3	33.9		
	活動指標 2 (単位/回)	計画値	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		実績値	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
成果指標 2 (単位/%)	計画値	49.7	46.7	43.7	40.7	37.7	34.7	31.7	28.7	25.7	20.7			
	実績値	46.3	50.0	49.1	41.1	39.7	45.7	50.0	50.0	31.5	39.3			
活動指標 3 (単位/人)	計画値	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	
	実績値	46	101	101	102	93	90	88	101	78	66			
成果指標 3 (単位/%)	計画値													
	実績値													

事業	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				達成されている								達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない				少し上がっている				あまり上がっていない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない				変わらない
	総合評価				普通である				良好である				普通である

事業	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：読書する時間を持たない小学生の割合が微増している。ブックスタート事業を11月に開始したことをはじめ「砂川市子ども読書活動推進計画」に基づき新たな取り組みも開始したが効果はまだ表れていない	自己分析：読書をする時間を持たない小学生の割合は減少し、改善されたが、中学生の割合が増大し、計画値も上回り、読書をしない中学生が増加している。平成24年度より、新学習指導要領が本格実施となり、授業時数が増加したことも影響しているのではないかとと思われる。	自己分析：読書をする時間を持たない小学生・中学生の割合が増加し、計画値を下回っている。平成24年度より、新学習指導要領が本格実施となり、授業時数が増加したことも影響しているのではないかとと思われる。	判断理由：全国学力学習状況調査の結果で、平成24年度における読書する時間を持たない児童・生徒の割合を小学生は30.2%、中学生は46.7%に減らすことを目標としていたが、小学生は27.0%、中学生は50.0%となっており、中学生は目標に達したことからある程度の実績はあがっているため。	自己分析：読書をする時間を持たない小学生・中学生の割合が増加し、計画値を下回っている。毎年度調査であり、経過を見ることはできず、単年度ごとの結果になっている。	自己分析：読書をする時間を持たない小学生・中学生の割合が増加し、計画値を上回ったが、中学生の割合が増加し、計画値を下回っている。「第1次砂川市子ども読書活動推進計画」の最終年だったが、読書をする時間を持たない小学生の割合が減少したこと、一定程度の効果があったと思われる。	自己分析：読書をする時間を持たない小学生・中学生の割合が増加し、計画値を下回っている。毎年度調査であり、経過を見ることはできず、単年度ごとの結果になっている。	判断理由：全国学力学習状況調査の結果で、平成28年度における読書する時間を持たない児童・生徒の割合を小学生は26.2%、中学生は34.7%に減らすことを目標としていたが、小学生は27.8%、中学生は45.7%となっており、どちらも目標には達しなかった。	自己分析：読書をする時間を持たない小学生・中学生の割合が増加し、計画値を下回っている。毎年度小6・中3の対象学年ごとの調査であり、経過を見ることはできず、単年度ごとの結果になっている。	自己分析：読書をする時間を持たない小学生・中学生の割合が増加し、計画値を下回っている。毎年度小6・中3の対象学年ごとの調査であり、経過を見ることはできず、単年度ごとの結果になっている。	自己分析：読書をする時間を持たない小学生・中学生の割合が増加し、計画値を下回っている。毎年度小6・中3の対象学年ごとの調査であり、経過を見ることはできず、単年度ごとの結果になっている。	判断理由：全国学力学習状況調査の結果で、平成30年度における読書する時間を持たない児童・生徒の割合を小学生は24.2%、中学生は28.7%に減らすことを目標としていたが、小学生は27.8%、中学生は50.0%となっており、どちらも目標には達しなかったが、乳児健診の受診者へはブックスタートの絵本を配布しての等一定程度の効
			今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続			

方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 中期的な視点から事業手段をとらえる必要があることから、現状のまま継続することとするが、学校における読書活動を下支えするための連携強化や子ども読書活動ボランティアの養成とその活動の場の提供等課題と的確に把握し、この課題解決に向けた取り組みは一定程度行っていく。	H28： 第2次砂川市子ども読書活動推進計画の初年度であることから、学校における読書活動を下支えするための連携強化や、子ども読書活動ボランティアの人材育成と活用を図り、子どもの読書環境の充実を図る。	H30： 第2次砂川市子ども読書活動推進計画に沿って学校における読書活動を下支えするための連携強化や、子ども読書活動ボランティアの人材育成と活用を図り、子どもの読書環境の充実を図る。
--------------------------------	---	--	--

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	公民館主催事業				事業期間	昭和 56 年度 ～ — 年度						所管課係	社会教育課文化学習係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-3	他に関連する基本事業	3-2-1	—	—	—	—	—	
目的 (何のために実施するのか)	地域課題や市民の学習ニーズに対応した講座・教室・講演会を開催して、継続的学習を行う新規グループ・サークルの設立や既存グループ・サークルの活性化を図りながら、誰もが経済力等の境遇に左右されことなく公平に学ぶことのできる機会を確保し、地域課題の解決、市民の教養の向上や技術の習得につなげる。						手段 (どのような方法で実現するのか)		地域課題や市民の学習ニーズに対応した講座・教室・講演会を企画し、広報すながわ・オアシス通信・パンフレット等により受講案内をし、申し込みについては公民館窓口又は電話等で受け付ける。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	一般市民						成果 (どのような効果が得られるのか)		講座・教室・講演会にできるだけ多くの市民に参加してもらうことにより、地域課題の解決、市民の教養の向上や技術の習得の機会が確保される。					
事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む）		公民館開設以来、各種の講座、教室などを開催している。 その内容は教養や健康・生活・技能など多岐にわたり、毎年内容の見直しを行いながら現在に至っている。												

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画		
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 合計	
投入 された 事業 費	国 費	計画額			0				0					0	0	
		予算計上額			0				0					0	0	
		実績額			0				0					0	0	
	道 費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
一般財源	計画額	566,000	566,000	566,000	1,698,000	416,000	416,000	416,000	1,248,000	416,000	416,000	416,000	416,000	1,664,000	4,610,000	
	予算計上額	566,000	566,000	416,000	1,548,000	416,000	348,000	416,000	1,180,000	416,000	416,000	416,000	416,000	1,664,000	4,392,000	
	実績額	492,000	536,000	408,000	1,436,000	356,000	166,000	314,000	836,000	330,000	268,000	198,000	130,000	926,000	3,198,000	
事業費合計	計画額	566,000	566,000	566,000	1,698,000	416,000	416,000	416,000	1,248,000	416,000	416,000	416,000	416,000	1,664,000	4,610,000	
	予算計上額	566,000	566,000	416,000	1,548,000	416,000	348,000	416,000	1,180,000	416,000	416,000	416,000	416,000	1,664,000	4,392,000	
	実績額	492,000	536,000	408,000	1,436,000	356,000	166,000	314,000	836,000	330,000	268,000	198,000	130,000	926,000	3,198,000	
の 移	事業費予算の内容	講師謝礼	講師謝礼	講師謝礼		講師謝礼	講師謝礼	講師謝礼		講師謝礼	講師謝礼	講師謝礼	講師謝礼			
	前年度予算との比較 (増減理由)	前年度同額	前年度同額	文化振興事業交付金移行分の減 △150千円		前年度同額	公民館閉館による開催回数の減	前々年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額	前年度同額			
	実績との比較 (増減理由)	講師謝礼が不要な講師を招聘したことなどによる。 3月補正 △74千円	市民大学講演会の講師謝礼が安価でできたため 3月補正 △34千円	執行残		市民大学講師謝礼の減 3月補正 △60千円	市民大学講師謝礼の減 3月補正 △182千円	市民大学講師謝礼の減 3月補正 △102千円		市民大学講師謝礼の減 3月補正 △86千円	市民大学講師謝礼の減 3月補正 △148千円	市民大学講師謝礼の減 3月補正 △218千円	市民大学、公民館講座・教室等講師謝礼の減 3月補正 △286千円			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：公民館講座等実施回数				指標の求め方：年度内に実施した市民大学講演会、公民館講座、公民館教室の開催回数								
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：公民館講座等受講者数				指標の求め方：公民館講座等受講者数								
指標	活動指標 1 (単位/回)	計画値	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	
		実績値	12	17	15	10	11	16	14	13	16	8		
成果指標 1 (単位/人)	計画値	189	187	185	183	181	179	176	174	172	170			
	実績値	218	212	255	277	253	438	377	299	344	161			
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)													達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)													上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)													変わらない
	総合評価													普通である
	総合評価の判断理由	自己分析：講座等の開催回数は計画値を下回っているが、受講者数は対前年度比で213人に対して218人と5人程度増加しており、成果指標でも計画値を上回っている。また、受講者からの評価も高いため	自己分析：事業指標については計画値を上回っている。また、受講者アンケートの内容も評価が高かった。しかし、前年度と比較すると受講者数が減少している。	自己分析：事業の実施回数は計画どおり実施。受講者数も増加している。受講者アンケートの内容も評価が高く、事業実績は上がっている。	判断理由：目標値を187人としていたところ、212人で目標を上回っており、受講生数は前年度より減少したため。	自己分析：事業実施回数は、下回っているが、受講者数は増加している。受講者アンケートの満足度は高い。内容的には、体験型の講座が好評である。	自己分析：事業実施回数は、計画値を下回っている。また、受講者数は若干減少している。公民館閉館の影響はある。受講者アンケートの満足度は高い。講師、テーマ、内容により、受講者数のばらつきが生じる。	自己分析：事業の実施回数は計画値を若干上回っている。また、受講者数も増加している。受講者アンケートの内容も評価が高く、事業実績は上がっている。	判断理由：受講者数目標値は、上回っている。事業実施回数が受講者の増減の直接要因ではないと考え、判断したため。	自己分析：事業の実施回数はほぼ計画値どおりとなっている。受講者数については減少傾向ではあるが、計画値を上回っていて、受講者アンケートの内容は評価が高いことから、事業実績は一定程度上がっている。	自己分析：事業の実施回数は計画値を下回っている。受講者数については減少傾向ではあるが、計画値を上回っていて、受講者アンケートの内容は評価が高いことから、事業実績は一定程度上がっている。	自己分析：事業の実施回数は計画値を若干上回っている。また、受講者数も増加している。受講者アンケートの内容も評価が高く、事業実績は一定程度上がっている。	自己分析：新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、事業を中止したことから、事業の実施回数は計画値を大幅に下回ったが、受講者アンケートでの評価は高いことから、それなりに事業実績はあがっている。	判断理由：受講者数目標値は、上回っている。事業実施回数が受講者の増減の直接要因ではないと考えたため。
今後の方向性					縮小									現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：公民館だけでなく、多様な主体による学習機会の提供を促すことにより、より効果的な事業の推進を図ることができると考えられることから、主催事業を縮小する。				H28：公民館以外でも、多種多様な学習機会の提供がされており、現状を維持する方向で主催事業を進める。受講者アンケート等を参考にしながら、効果的な事業推進を図る。				H30：公民館主催事業以外にも、多様な主体な学習機会の提供がされているが、社会教育法に定める公民館の目的のため、現状を継続する方向で主催事業を進める。受講者アンケート等を参考にしながら、効果的な事業推進を図る。受講者アンケートの満足度は高い。					

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	出張公民館事業				事業期間	平成 23 年度 ～ — 年度								
事業性質区分	新規・継続	新規	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-3	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	社会教育課文化学習係
目的 (何のために実施するのか)	公民館グループ・サークルと連携し、公民館へ来館が困難な市民に対して学習機会を提供できるようにし、公民館グループ・サークルの学習成果の地域還元をすることによるグループ・サークルの活性化を促すとともに地域における学習機会を確保する。						手段 (どのような方法で実現するのか)		公民館グループ・サークルで活動している人材が主体となり、市内東・南・北地区コミュニティセンターあるいは地域から要請があれば町内会館等で講座を開催することに関する必要な調整を行う。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	公民館への来館が困難な市民						成果 (どのような効果が得られるのか)		公民館に来ることが困難な市民が身近な場所で学習機会があることを知ることにより学習活動に取り組む市民が増加する。また、公民館グループ・サークルの学習成果を地域還元することを通して新規会員が加入するなどのグループ・サークルの活性化が図られる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	平成23年度より事業実施に向けて意向調査・調整等を行い、平成25年度より実施している。													

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計画 計	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)		実施4カ年 計
投入 された 事業 費の 推移	国費	計画額			0				0	12,000	12,000	12,000	12,000	48,000	48,000
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0	6,000	6,000	6,000	6,000	24,000	24,000
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	その他	計画額			0				0	25,000	25,000	25,000	25,000	100,000	100,000
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
一般財源	計画額		49,000	49,000	98,000	51,000	51,000	51,000	153,000	8,000	8,000	8,000	8,000	32,000	283,000
	予算計上額		0	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	153,000	51,000	51,000	51,000	51,000	204,000	408,000
	実績額		0	8,000	8,000	51,000	50,760	50,760	152,520	50,920	50,760	50,534	8,635	160,849	321,369
事業費合計	計画額	0	49,000	49,000	98,000	51,000	51,000	51,000	153,000	51,000	51,000	51,000	51,000	204,000	455,000
	予算計上額	0	0	51,000	51,000	51,000	51,000	51,000	153,000	51,000	51,000	51,000	51,000	204,000	408,000
	実績額	0	0	8,000	8,000	51,000	50,760	50,760	152,520	50,920	50,760	50,534	8,635	160,849	321,369
事業費予算の内容			会場借上料	会場借上料		消耗品費	消耗品費	消耗品費		消耗品費	消耗品費	消耗品費	消耗品費		
前年度予算との比較 (増減理由)			前年度事業計画なし	平成25年度新規計上		前年度同額(支出費目変更)	前年度同額	前年度同額		前年度同額	前年度同額	前年度同額	前年度同額		
実績との比較 (増減理由)			増減なし	講座開催時の会場借上料が必要ないことによる執行残		同額	執行残	執行残		執行残	執行残	執行残	事業が実施できなかったため減3月補正△42千円		

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 査

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	公民館、郷土資料室及び図書館施設整備事業				事業期間	— 年度 ~ — 年度					所管課係	社会教育課文化学習係 図書館管理係
	事業性質区分	新規・継続	新規	建設・建設外		建設	第6期総合計画 の位置付け	3-2-3	他に関連する 基本事業	—		
目的 (何のために実施する のか)	公民館、郷土資料室及び図書館施設機能を維持することにより、市民一人ひとりの学習ニーズや地域課題の要請に応じた生涯学習の拠点機能を確保するため。					手段 (どのような方法で 実現するのか)		定期的な施設の状態を点検・記録し、施設本体、設備又は備品等の破損・劣化頻度を把握しつつ、長期的視点から最も低廉な費用で計画的な改修・管理を行う。				
対象 (誰・何を対象として いるのか)	砂川市公民館、郷土資料室及び図書館					成果 (どのような効果が 得られるのか)		施設の機能に起因した事故や苦情がなくなる。				
事業開始時の状況・これまでの 経緯（行革内容含む）	【公民館】…昭和56年10月14日完成、大規模改修については、昭和56年度排水管制水扉設置工事、昭和57年度水防対策設備工事、昭和59年度地下書庫改修工事、昭和60年度スピーカー取付工事、平成2年度オイル配管改修工事、平成4年度ボイラー補修工事、平成6年度屋上防水補修工事、内部改修工事、平成14年度放送設備改修工事、平成15年度温水ボイラー改修工事、平成19年度トイレ改修工事、平成21年度西側外壁塗装等工事を実施した 【図書館】…昭和58年2月1日完成、大規模な改修については、昭和62年度地下車庫シャッター取付工事、平成21年度西側外壁塗装等工事、平成22年度南側外壁等改修工事を実施した。											

【DO】

実績

(単位：円)

投入された事業費の推移	国費	道費	地方債	その他	一般財源	第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期 総合計画 計
						第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31・R元年度)	第10年次 (R2年度)	
事業費合計	計画額	1,696,000				1,696,000												1,696,000
	実績額	1,680,000				1,680,000												1,680,000
事業費予算の内容	計画額	4,684,000	10,629,000	0	15,313,000	19,759,000	439,328,000	8,782,000	467,869,000	2,181,000	24,731,000	14,930,000	7,295,000	49,137,000	530,623,000			
	実績額	4,461,240	11,942,385	24,465,000	40,868,625	18,252,000	534,695,439	8,104,883	561,052,322	2,268,114	19,882,800	15,121,737	7,181,713	44,454,364	644,695,311			
前年度予算との比較 (増減理由)	改修事業等の内容が異なることによる減少	改修事業等の内容が異なることによる減少	改修事業等の内容が異なることによる増加		改修事業等の内容が異なることによる増加	改修事業等の内容が異なることによる増加	改修事業等の内容が異なることによる増加	改修事業等の内容が異なることによる減少		改修事業等の内容が異なることによる減少	改修事業等の内容が異なることによる増加	改修事業等の内容が異なることによる減少	改修事業等の内容が異なることによる減少					
実績との比較 (増減理由)	入札、見積り合わせによる減3月補正△87千円	パネルヒーター改修箇所増分の増、6月補正12,831千円、3月補正△1,017千円	入札による減		入札による減	入札による減 移動ステージ、オープンレンジ等6月補正5,627千円/パネルヒーター、擁壁等3月補正1,008千円	入札による減		入札による減	入札による減3月補正△129千円、公民館キッズベース備品9月補正217千円	入札、見積り合わせによる減3月補正△426千円、図書館備品3月補正315千円	入札減3月補正△839千円他、見積り合わせによる減、執行残。	入札減3月補正△113千円他、見積り合わせによる減、執行残。					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：開館日数				指標の求め方：公民館の開館日数							
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：施設機能に起因する使用不能件数				指標の求め方：年度内における施設機能が起因して使用できない件数をカウント							
指標	活動指標 1 (単位/日)	計画値	360	359	359	359	360	359	359	359	360	359	
		実績値	360	359	359	359	207	359	359	356	359	315	
指標	成果指標 1 (単位/件)	計画値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		実績値	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事業 評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)												達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)												上がっている
	事業の効率性 (事業費に対する成果)												変わらない
	総合評価												普通である
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 現在の施設が建設以来30年を経過し、施設の老朽化に伴う破損や故障が増えている。	自己分析： 施設・設備の老朽化に伴い、破損や故障が増大してきている。	自己分析： 施設・設備の老朽化に伴い、破損や故障が増えている。図書館空調設備が改修され、利用環境が整えられた。	判断理由： 施設・設備の老朽化・陳腐化が進行していることから、現代的な学習ニーズや課題に十分対応できない状態ではないが、必要な改修等は実施し最低限の施設機能の維持を図られている。	自己分析： 施設・設備の老朽化に伴い、破損や故障が増えている。耐震改修等工事に向けた、実施設計を行った。	自己分析： 耐震改修等工事の後も、公民館閉館中のグループ・サークルの活動施設調節など公民館が実施し、継続して活動された。	自己分析： 耐震改修等工事の後も、公民館閉館中のグループ・サークルの活動施設調節など公民館が実施し、継続して活動された。	判断理由： 耐震改修等工事を行い、耐震、施設・設備の維持が定期的に行っている。図書館についても図書館の維持を定期的に行い、学習環境は、一定程度整えられた。	自己分析： 耐震改修等工事後、公民館施設の保守・設備の維持を定期的に行っている。図書館についても図書館の維持を定期的に行い、学習環境は、一定程度整えられた。開館日数の減については、平成30年北海道胆振東部地震により、避難所が開設されたことによるものである。	自己分析： 耐震改修等工事後、公民館施設の保守・設備の維持を定期的に行っている。図書館についても図書館の維持を定期的に行い、学習環境は、一定程度整えられた。	自己分析： 耐震改修等工事後、公民館施設の保守・設備の維持を定期的に行っている。図書館についても図書館の維持を定期的に行い、学習環境は、一定程度整えられた。
	今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続				現状のまま継続
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25： 定期的に施設・設備の点検をしながら、必要となる改修・修繕箇所の把握に努めているが、予想していない箇所の故障や破損が散見されている。また、公民館の耐震強度が不足しているが改修の方向性については検討中である。				H28： 公民館耐震改修等工事を行ったことから大規模な改修・修繕は予定していない。ただし、隣接する図書館が建設以来30年以上経過していることから、施設・設備の点検をしながら、計画的な修繕の検討が必要である。				H30： 公民館は耐震改修等工事を行ったことから大規模な改修・修繕は予定していないが、設備品の更新は必要であり、計画的に行っていく。 また、郷土資料室内展示については、昭和56年の開設以来大規模な改修・修繕を行っていないことから、全面的な改修を検討して行く。 図書館についても、建設以来30年以上経過していることことから、施設・設備の定期的な点検を行いながら、計画的な大規模修繕が必要である。			

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	図書館開館時間延長事業				事業期間	平成 8 年度 ～ ー 年度						所管課係	図書館管理係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-3	他に関連する基本事業	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
目的 (何のために実施するのか)	通常の開館時間（10：00～18：00）に図書館の利用が困難な市民に対して、図書館の開館時間を延長する日を設け、市民の利便性向上に繋げる。						手段 (どのような方法で実現するのか)		毎週水曜日及び金曜日（祝日を除く）の開館時間を20：00まで2時間延長。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	通常の開館時間に図書館の利用が困難な市民。						成果 (どのような効果が得られるのか)		開館時間を延長することにより、その時間帯における来館者・貸出が増加し、図書館の利用機会の拡大を図ることができる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯（行革内容含む）	平成8年度より、生涯学習社会の到来を迎え、市民に親しまれ利用しやすい施設づくりの一環として市民の学習意欲に応える様、一律午前10時から午後6時までだった開館時間を水・金の週2日間、午後8時までの開館に変更した。													

【DO】

実績

（単位：円）

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31年度)	第10年次 (32年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
一般財源	計画額	1,764,000	1,764,000	1,764,000	5,292,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	7,152,000	17,772,000
	予算計上額	1,764,000	1,800,000	1,800,000	5,364,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,812,000	2,335,000	2,765,000	8,700,000	19,392,000
	実績額	1,764,000	1,800,000	1,794,000	5,358,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,812,000	2,314,340	2,651,622	8,565,962	19,251,962
事業費合計	計画額	1,764,000	1,764,000	1,764,000	5,292,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	1,788,000	7,152,000	17,772,000
	予算計上額	1,764,000	1,800,000	1,800,000	5,364,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,812,000	2,335,000	2,765,000	8,700,000	19,392,000
	実績額	1,764,000	1,800,000	1,794,000	5,358,000	1,776,000	1,776,000	1,776,000	5,328,000	1,788,000	1,812,000	2,314,340	2,651,622	8,565,962	19,251,962
事業費予算の内容	司書報酬	司書報酬	司書報酬		司書報酬	司書報酬	司書報酬		司書報酬	司書報酬	司書報酬	司書報酬及び 期末手当			
	前年度予算との比較 (増減理由)	前年度同額	司書報酬の増額	前年度同額		司書報酬交通費の減額	前年度同額	前年度同額		司書報酬の増額	司書報酬の増額	司書報酬の時間 数増による増額	司書報酬の増及び 期末手当支給による増額		
	実績との比較 (増減理由)	同額	司書報酬の増額	司書報酬交通費の減額		同額	同額	同額		同額	同額	勤務日数減（病 欠）による減額	時間外未執行による残		

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：夜間開館実施日数				指標の求め方：年度内に夜間開館を実施した日数をカウント							
成果指標 1 (「成果」をもとに設定)		指標名：夜間開館時市民貸出冊数				指標の求め方：夜間開館時に市民に貸出した冊数							
指標	活動指標 1 (単位/日)	計画値	97	99	96	99	98	98	98	98	96	97	98
		実績値	97	94	93	97	96	91		91	96	94	69
成果指標 1 (単位/冊)	計画値	1,079	1,086	1,092	1,097	1,103	1,107		1,112	1,116	1,119	1,122	
	実績値	3,382	3,413	3,939	4,052	2,395	2,158		2,892	2,658	2,524	1,010	
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				上がっている				あまり上がっていない				あまり上がっていない
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない				あまり上がっていない
	総合評価				良好である				普通である				普通である
	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	判断理由：開館時間延長日における平成23年度実績と比較すると平成24年度の1日当たりの来館者は減少しているが、貸出冊数は増加しており、入館者数1人当たりの貸出冊数を比較すると4.1冊から4.4冊と増加している。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている。※7～11月の公民館耐震改修等工事で公民館が休館。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、平成8年度より事業を開始し、市民に一定程度定着してきている。※児童書架改修工事により8月30日～9月15日まで図書館休館、9月16日～9月30日まで児童書の貸出休止。	判断理由：開館時間延長日における平成26年度実績と比較すると平成27年度の貸出は減少している。7～11月の公民館耐震改修等工事の影響があったと思われる。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、夜間開館時に市民に貸出した冊数計画値を上回っている。平成8年度より事業を開始し、市民に定着している。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、夜間開館時に市民に貸出した冊数計画値を上回っている。平成8年度より事業を開始し、市民に定着している。	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、夜間開館時に市民に貸出した冊数計画値を上回っているが、夜間開館時に貸出した冊数は前年度より減少している	自己分析：日中図書館利用が困難な市民の生涯学習機会を確保する本事業の意義は高く、夜間開館時に市民に貸出した冊数計画値及び夜間開館時に貸出した冊数は前年度より減少している。※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、当初予定より27日減少
今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続					現状のまま継続
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：事業が利用者に対して認知されてきていることから当面は事業を継続したいという方針ではあるが、一部に事業の拡大を望む声もあることから、事業実績の動向に注視しつつ、地域の就業時間帯や図書館の置かれている環境などを総合的に勘案する必要がある。				H28：事業が利用者に対して認知されてきていることから当面は事業を継続していく。				H30：事業が利用者に対して認知されてきていることから当面は事業を継続していく。				

第 6 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

事業名	図書充実事業				事業期間	昭和 58 年度 ～ — 年度							所管課係	図書館管理係	
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第6期総合計画の位置付け	3-2-3	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	—	—	
目的 (何のために実施するのか)	図書等の必要な資料を適切に収集、整理、保存しながら市民に供し、教養、調査研究等市民の自主的学習を支援する。						手段 (どのような方法で実現するのか)		利用者ニーズや図書の発刊の状況、蔵書の構成や図書の利用状況を見据え、計画的に図書等を整備し、適正に整理・保存できるようにしたうえ、これらに関して分かりやすく案内・提供するとともに、利用者等からの相談に応じる。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民一般、団体						成果 (どのような効果が得られるのか)		より多くの市民に活用されるようにすることにより、市民の教養の向上や地域課題の解決に繋がる糸口が見いだされる。						
事業開始時の状況・これまでの経緯 (行革内容含む)	昭和57年度の図書館の開館と同時に事業を開始。														

【DO】

実績

(単位：円)

		第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画				第6期総合計画計	
		第1年次 (23年度)	第2年次 (24年度)	第3年次 (25年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (26年度)	第5年次 (27年度)	第6年次 (28年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (29年度)	第8年次 (30年度)	第9年次 (31年度)	第10年次 (32年度)		実施4カ年 合計
投入された事業費の推移	国費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	道費	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	地方債	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0					0	0
	その他	計画額			0				0					0	0
		予算計上額			0				0					0	0
		実績額			0				0			325,000	1,000,000	1,000,000	2,325,000
一般財源	計画額	4,546,000	4,546,000	4,546,000	13,638,000	4,534,000	4,559,000	4,559,000	13,652,000	4,559,000	4,559,000	4,559,000	4,559,000	18,236,000	45,526,000
	予算計上額	4,529,000	4,516,000	4,528,000	13,573,000	4,534,000	4,544,000	4,535,000	13,613,000	4,547,000	4,533,000	4,543,000	4,546,000	18,169,000	45,355,000
	実績額	4,489,765	4,513,957	4,531,511	13,535,233	4,530,587	4,538,658	4,527,602	13,596,847	4,533,327	4,527,377	4,545,635	4,538,051	18,144,390	45,276,470
事業費合計	計画額	4,546,000	4,546,000	4,546,000	13,638,000	4,534,000	4,559,000	4,559,000	13,652,000	4,559,000	4,559,000	4,559,000	4,559,000	18,236,000	45,526,000
	予算計上額	4,529,000	4,516,000	4,528,000	13,573,000	4,534,000	4,544,000	4,535,000	13,613,000	4,547,000	4,858,000	5,543,000	5,546,000	20,494,000	47,680,000
	実績額	4,489,765	4,513,957	4,531,511	13,535,233	4,530,587	4,538,658	4,527,602	13,596,847	4,533,327	4,852,295	5,543,929	5,543,311	20,472,862	47,604,942
事業費予算の内容	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費		図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費		図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費	図書購入費 雑誌等購入費		
前年度予算との比較 (増減理由)	購入予定雑誌等の変更による減	購入予定雑誌等の変更による減	購入予定雑誌等の変更による増		消費税増税分の増	購入予定雑誌等の変更による減	購入予定雑誌等の変更による減		購入予定雑誌等の変更による増	購入予定雑誌等の変更による減	寄付金による増	購入雑誌単価変動による増			
実績との比較 (増減理由)	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため	購入雑誌等の刊行時の単価変動による増		購入雑誌等の刊行時の単価変動による増	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため		不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため	寄付金による増	寄付金、購入雑誌等の刊行時の単価変動による増	不定期刊行雑誌の刊行回数が少なかったため			

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1 (「手段」をもとに設定)		指標名：年間貸出冊数				指標の求め方：1年度間の貸出冊数				成果指標 1 (「成果」をもとに設定)				指標名：図書館業務に対する苦情件数				指標の求め方：1年度間に寄せられる苦情件数			
指標	活動指標 1 (単位/冊)	計画値	72,000	72,000	72,000		72,000	72,000	72,000		72,000	72,000	72,000	72,000		72,000	72,000	72,000	72,000		
		実績値	72,263	67,477	75,496		74,971	67,133	66,172		66,502	63,794	63,592	47,646							
成果指標 1 (単位/件)	計画値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0			
	実績値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0		0	0	0	0			
事業評価	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				あまり達成されていない				あまり達成されていない					あまり達成されていない							
	事業の成果 (成果指標をもとに評価)				少し上がっている				少し上がっている					変わらない							
	事業の効率性 (事業費に対する成果)				変わらない				変わらない					変わらない							
	総合評価				普通である				普通である					普通である							
	評価内容	総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	判断理由：前年度の1日当たりの貸出冊数は256.3冊で5.3%程度減少しているが、入館者一人当たりの貸出冊数は昨年並みで、入館者に対するニーズはある程度満たしている。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。1回あたりの貸出冊数を5冊から10冊に増やしている。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。※7～11月の公民館耐震改修等工事により8月30日～9月15日まで図書館休館、9月16日～9月30日まで児童書の貸出休止。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っている。※児童書架改修工事により8月30日～9月15日まで図書館休館、9月16日～9月30日まで児童書の貸出休止。	判断理由：平成27年度の1日当たりの貸出冊数は239.7冊で、10.2%程度減少しているが、7～11月の公民館耐震改修等工事で公民館が休館したことが影響したと思われる。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っているが、1年度間の貸出冊数は計画値を下回っている。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っているが、1年度間の貸出冊数は計画値を下回っている。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っているが、年間貸出冊数は前年度と比べて0.3%減のほぼ横ばいとなっているが、1年度間の貸出冊数の計画値は下回っている。	自己分析：貸出図書のリエストに答えるなど、利用者ニーズに対しては最大限配慮した事業の推進を行っているが、年間貸出冊数は前年度と比べて25.1%減少している。※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための臨時休館や閲覧利用自粛、高校生以下の利用自粛の期間があった。	判断理由：平成30年度の1日当たりの貸出冊数は231.9冊で4.0%程度減少しているが、入館者一人当たりの貸出冊数は昨年並みで、入館者に対するニーズはある程度満たしている。						
今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続					現状のまま継続								
方向性の判断理由改善、改革の内容 (H25、H28、H30)	H25：読書ニーズや地域課題を把握し、市民にとって利用価値が高まる取組を進めている。				H28：読書ニーズや地域課題を把握し、市民にとって利用しやすい読書環境を整えていく。				H30：読書ニーズや地域課題を把握し、市民にとって利用しやすい読書環境を整えていく。												